

『新渡戸稲造・賀川豊彦 ～ 『勇ましく高尚なる生涯』 ～』

2023 年 1 月 16 日 学生の授業で賀川豊彦の(1888-1960)を話されている先生と賀川豊彦の事が話題になった。【東京医療生活協同組合新渡戸記念中野総合病院は、故新渡戸稲造博士(1862-1933)・故賀川豊彦氏らにより 1932 年「東京医療利用組合」として創立された、日本で最初の組合病院です。「東京医療利用組合設立趣意書」には「疾病に対する治療は、人間の最も尊貴なる生命の保護として、貧富、高下、都鄙の別なく享受せられなければならぬ」「個人としての医師の及ばない経済上の問題を解決し、更に医療上に於ても、各専門医の協力と総合による組織的医療を行い得ること、進んで治療の根本問題であるところの組合員の保健即ち予防医学まで誠意を以て徹底的な貢献を為し得る点に於て、特色を持つものであります。」と謳われ、東京医療利用組合は十分かつ高度の医療を全ての人々が安心して受けられる医療機関を提供する事を目指したものでした。】と紹介されている。

2003 年の『われ 21 世紀の新渡戸とならん』（画像）は、癌研時代に、学術雑誌の編集後記を依頼され、連載した文章をまとめたものである。癌研時代の吉田富三(1903-1973)の愛弟子：菅野晴夫先生（1925-2016）との出会いである。アメリカの Knudon 留学時代(1989-1991)には、『週刊医学界新聞』から連載を依頼された。2000 年の国連大学で、今は亡き検事総長と新渡戸稲造『武士道』100 周年シンポジウムを企画した。そして、『われ 21 世紀の新渡戸とならん』が、発行される運びとなった。序文の中で、【「所詮われわれには、死ぬときは『壘 1 枚ほどの墓場』しか残らない。『勇ましく高尚なる生涯』の生き様を見せるしかない。精神的デフレが進む現代、『愉快に過激にかつ品性』を合言葉に…新渡戸稲造と吉田富三（がん病理学者）の総合ビジョンを問い直す機会になれば幸いである。】と記述している！2003 年には、『吉田富三生誕 100 周年記念シンポジウム』を菅野晴夫先生と日本病理学会と日本癌学会で企画した。そして、2003 年順天堂大学医学部の病理学の教授に招かれた。そして、定年退職の 2019 年に『新渡戸稲造記念センター』が創設され『新渡戸稲造記念センター長』を拝命した。不思議な時の流れを痛感する日々である！『言葉の院外処方箋』記念誌が発行されると歴史的快挙となろう！

樋野 興夫 著

われ
21世紀

の新渡戸
と

ならん

樋野

興夫

新渡戸
稲造

e-grape